

振興会 だより

令和6年4月24日発行
編集・発行 振興会
羽田地区センター

「振興会総会」 5年ぶりに開催

4月23日(火)に、振興会総会が、地区センター体育館で、5年ぶりに開催されました。代議員35名中20名が出席し、討議が重ねられました。
5年度事業報告では、①「铸件のまち羽田」夏の夜空を彩る ふるさとの「花火」の実施、②4年に一度の羽田地区自主防災訓練の実施、③4年ぶりの「羽田躍進まつり」の実施等が報告されました。
6年度事業計画(案)では、①災害に強いまちづくり、賑わいのあるまちづくりの推進、②協働のまちづくり交付金を活用したまちづくりの推進、③振興会主催まちづくり事業の推進等が提案され、すべて、原案どおり承認されました。

なお、昨年度振興会総会が成立しなかった事態を鑑み、振興会として、総会を成立させるため、代議員がやむを得ず出席しかねる場合、委任状の提出を求め、骨子とする規約改正(案)を提案し、賛成多数で承認されました。

着任 佐藤センター長

この4月から、センター長を仰せつかっております、羽田中央行政区の住人、佐藤庄治郎といたします。どうぞ、よろしくお願いいたします。
県立高校の教員を23〜68歳まで45年間勤め、その後、2年間無職の中で、昨年10月に古希を迎えました。
教員と言えば、世の中知らず。加えて、不器用、愚直一徹と何の取り柄もありませんが、反面、一度決めたいことは、最後までやり抜く意志は

交流を深めた 「ふれあい食堂」

児童、保護者、老人クラブ

3月24日(日)、羽ねっちの会による「ふれあい食堂」が開設されました。子ども11名、大人(保護者、ひまわりクラブ、民生児童委員)12名、羽ねっちの会6名、計29名が世代間交流をねらいに参加しました。
当日は、参加者全員でポッチャを楽しむ、食事に代わる、羽ねっちの会の皆さんによる手作り「お弁当」を持ち帰りました。

持ち合わせています。
現在、日本は少子高齢化が、急速に進行しております。羽田地区にもその波は押し寄せております。また、気候変動が顕著なものとなり、「地球沸騰化」時代に入ったとも言われている昨今です。防災が非常に大きな意味を持ちつつあります。
このような現状を踏まえ、羽田地区の振興は如何にあるべきか?大きな課題が山積していることは、否定できない事実です。
まずは、可能なことから、一つひとつ丁寧に取り組んでまいりますので、ご協力、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

「地域と交流する機会を持ちたい」と思っていたので、このようなイベントはありがたい」「ポッチャは誰でもできるスポーツ。年齢が違う人たちが一緒にやるのにちょうどいい」などの感想が寄せられました。
(新聞掲載記事は裏面)

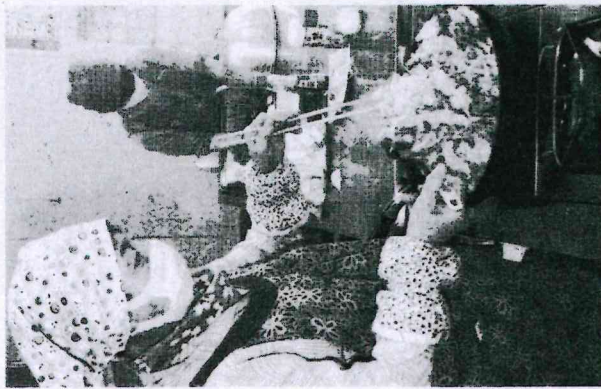
紹介 地区センター スタッフ

令和6年度の羽田地区センター職員を紹介します。昨年度から、センター長と用務員が替わりました。業務分担は昨年度と同様です。

- センター長 佐藤 庄治郎
- 事務長 稲田 寛之
- 地域活動員 及川 朋子
- " 保坂 成実
- " 熊林 ひとみ
- 管理人 浅沼 武美
- 用務員 千田 勝代



世代間交流を後押し



35人分の弁当を調理する「羽ねっちの会」のメンバー



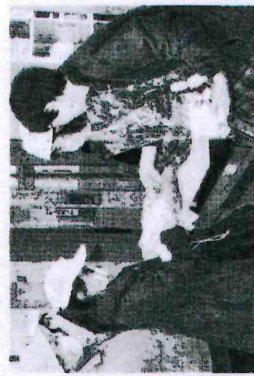
ふれあい食堂

(水沢・羽田地区センター)



3コートに分かれてボッチャの試合を楽しむ参加者

午前10時 羽田地区センターの玄関で受け付けを済ませた参加者が体育館へ向かっていく。この日のイベント種目は「ボッチャ」。3〜4人ずつに分かれたチームには、親子連れのほかにも高齢者の姿も見える。ボッチャは、的に向かってボールを投げ合うニュースポーツだ。初めての経験に戸惑っていた子どもたちも次第に集中。積極的な動き、体育館内に歓声や笑い声が響いていった。長女優理さん(7)と参加した高林由衣さん(31)は「学校で配られたチラシを見て娘が興味を示した。地域と交流する機会を持ちたいと思っていたので、このようなイベントはありがたい」とほほ笑む。東町行政役に住む18歳の男性は「ボッチャは誰でもできるスポーツ。年齢が違っても一緒に楽しめるのがいい」と目を細めた。一方、35人分の弁当を作



持ち帰り用の弁当と参加賞を受け取る子ども

区内の老人クラブそれぞれに参加を呼びかけている。

ちらしを配布するのは羽田小学校のみだが、特に対象地区の設定はしていない。友人などが誘い合うことを想定し、同地区以外からの参加も歓迎する。

同会はこれまで、ニュースポーツのモルック体験や野菜め、ミナチ飾りなどのイベントを企画してきた。小野寺代表(78)は「家でできないようなことを体験させてあげたいが、子どもの興味を引くイベントを企画するのは案外難しい」と実感を述べる。内容によって参加人数はばらつきもあるが、「何事もやってみないと分からない。試行錯誤をしながら続けていきたい」と引き続きの前を向く。

◇ ◇
羽ねっちの会(小野寺美代子代表、会員10人)は、21(令和3)年に発足した市民団体。名称は「羽のお姉さん」という意味だ。22年1月、羽田放課後児童クラブに食事提供を行ったのを皮切りに、小学校の長期休みに合わせて、夏・冬・春と年3回の活動を企画している。水沢羽田に本部を置く社会福祉法人愛護会が協賛し、同会栄養士が献立の作成を行うなどして運営をサポートする。

主な目的は世代間交流。バランスのよい食事を提供するとともに、子どもと高齢者との「ふれあいの場」を創出し、羽田小学校と地

胆江地区内で開かれている子ども食堂事業の標子を紹介します。火曜日掲載

【食堂データ】

- ◇主催/羽ねっちの会
- ◇会場/羽田地区センター
- ◇対象/誰でも参加できる
- ◇実施/長期休みに合わせ、夏・冬・春の年3回
- ◇内容/イベントと弁当の持ち帰り



振興会総会